

令和 7 年第 1 回魚沼市議会定例会
一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
3 月 4 日（1 日目）			
1	5	浅 井 宏 昭	一問一答
2	13	佐 藤 肇	一問一答
3	15	高 野 甲子雄	一問一答
4	14	関 矢 孝 夫	一問一答
5	4	星 直 樹	一問一答
6	7	大 桃 俊 彦	一問一答
7	2	横 山 正 樹	一問一答
8	10	佐 藤 敏 雄	一問一答
3 月 5 日（2 日目）			
9	6	星 野 みゆき	一問一答
10	12	渡 辺 一 美	一問一答
11	8	大 平 恭 児	一問一答
12	1	桑 原 郁 夫	一問一答
13	11	遠 藤 徳 一	一問一答
14	3	佐 藤 達 雄	一問一答
15	16	本 田 篤	一問一答

※一括：一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。

※一問一答：初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

令和 7 年第 1 回 魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

令和 7 年 3 月 4 日（1 日目）

1 番（議席 5 番）浅 井 宏 昭 一問一答

1. 昨秋のカメムシ大発生 of 教訓をどう生かすか

カメムシが昨秋には市内で日常生活に支障をきたすレベルで大発生し、山沿いでは想像を絶していた。白い外壁は真っ黒にカメムシで埋め尽くされ、外で人と話をしていれば口の中に入ってきたなんて話もよく耳にしており、日常生活に支障がでていた。

（1）昨秋に大量発生したカメムシの現状をどのように捉えていたか。

（2）山沿いの市民の生活に支障がでていたことは把握していたか。

（3）市内の民宿・旅館・ホテルでは宿泊客にどのような影響を与えていたか。

2. 小出駅前 of 活性化について

小出駅は、J R を利用して訪れた観光客が初めて魚沼市に降り立ち、最初に目にする魚沼市の風景でもあることから、魚沼市の「顔」ともいえるエリアであるが、現状では少し寂しい感じである。

高速道路を利用して魚沼に来る観光客には 魚沼インターチェンジとして高速道路の玄関口を整備してきたが、J R を利用して来訪してきた観光客に対して、これからどのような整備とアピール、そしてお金を落としてもらえる仕組みをつくっていいのか。

2 番（議席 13 番）佐 藤 肇 一問一答

1. 住民健診 of 受診率向上に向けて

魚沼市では住民健診として国保加入者を対象に 39 歳までの方の基本健診、40 歳から 74 歳までの方の特定健診、75 歳以上の方の後期高齢者健診を行っている。また、希望者に対するがん検診も行っている。しかし、全体に見て受診率が低い状況にあることから、受診率向上に向けた施策について問う。

（1）現状の基本健診、特定健診、後期高齢者健診の受診割合はどうか。また、がん検診等の受診状況はどうか。

（2）受診率が向上しない要因は何か。

（3）市が受診率向上に向け令和 7 年度から開始する、けん診デビュー割引についての内容を紹介いただきたい。

（4）未受診者に対する働きかけを、もっと強化できないか。

- (5) がん検診等では、受診者の身体への負担も少なからずある。そこで最近では、尿や血液中のマイクロRNAを検査することで、これまで発見が難しかったすい臓がんをはじめ、肝臓がん、胆管がん、膀胱がん、前立腺がん、卵巣がんなど13種類のがんの早期発見が可能となっている。また、自身で尿を採取して検査機関に送る検診キットも販売されている。このような手法によるがん検診の導入についてはどうか。

2. 公共インフラの老朽対策を問う

我が国では、高度成長期に建設されてきた公共インフラの老朽化対策が課題となってきた。本年1月29日に発生した埼玉県八潮市の流域下水道陥没事故の原因も、下水路管渠の経年劣化ではないかと言われている。魚沼市が管理している公共インフラの状況と保全対策を問う。

- (1) 以前伺った話では、魚沼市が管理している500余りの橋梁の点検は、5年周期で行っていると言っていたが、実施状況はどうか。緊急修繕で対応しなければならない箇所はあるのか。また、点検業者等から指摘を受け、通行車両の重量制限や通行規制をしている箇所はあるのか。
- (2) 土中に埋設された構造物や、上下水道の管渠など目視できないものは、耐久年数が経過したものから計画的に更新していかねばならないと考えるが、実際はどうなっているのか。
- (3) 上水道、簡易水道の有収率の低下、下水道不明水の増加など、どこかで漏水が起きている証拠であり対策が求められていると思う。漏水によって土砂が侵食され陥没事故が起こらないとも限らない。漏水等の調査状況はどうか。
- (4) 上水道、簡易水道の水源や浄水施設、配水池等の状況はどうか。今年の2月に井口新田地内と入広瀬芋鞆地内で給水障害が発生したが、その原因は何か。
- (5) 老朽施設等の更新予算の確保は、市単独では厳しい状況だと思う。関連する国、県の予算措置の状況はどうか。また、箇所別に国県に予算措置を要望しているところはあるのか。

3 番（議席 15 番）高 野 甲子雄 一問一答

1. 柏崎刈羽原発の再稼働には明確な反対の態度で対応すべきである

魚沼市は、柏崎刈羽原発の30km圏外ぎりぎりの位置にある。風向きは年間80%が西風であり、原発のある柏崎刈羽方向から吹いてくる。能登半島地震が教えてくれたように海岸の隆起に

は対応できないことが証明された。柏崎刈羽原発は軟弱地盤の上にあり、中越沖地震での被害は甚大であった。地震の際の液状化が心配である。使用済み核燃料の保管プールの水はこの間の地震のたびにあふれている。6、7号機は冷却装置である配管が外付けとなっており、地震の揺れで損傷の恐れを専門家は指摘している。2月12日の県技術委員会では「東電の適格性」、「耐震評価」、「想定を超えた事業（残余のリスク）への対応」、「テロ対策」の4項目については意見の一致ができず両論併記となった。地盤の悪い柏崎刈羽原発は動かしてはいけないと考えるが、市長の見解はどうか。

「再稼働の是非は県民投票で」の魚沼市民の法定署名は冬の12月、1月にもかかわらず、3,777筆、目標の118%にも上った。市長としての感想はどうか。

2. 魚野川河川内の立ち木の伐採を図れ

魚野川河川内は、2年続きの少雨、少雪で河川は40～50cmほど下がっているが、河川内の立ち木は大きくなっている。異常気象も言われており、特に小出地域は河川が集中しており、増水による家屋等への被害が懸念される。早期に伐採を行わなければ大きな災害となることが心配される。魚野川河川内の立ち木の伐採を図ってほしい。

4 番（議席 1 4 番）関 矢 孝 夫 一問一答

1. 市内の下水道管の老朽化対策について

埼玉県八潮市で発生した下水道管の破損によるとみられる大規模な道路陥没事故を受け、国土交通省は東京など7都道府県に緊急点検を要請した。新潟県は対象外だが、県が管理する流域下水道で交通量が多い道路にあり、設置から40年以上経過した場所を選んで緊急点検を始めた。また、県下水道課は下水道を管理する市町村に、道路陥没の事故防止に努めるよう促している。そこで本市の下水道管の老朽化対策について以下の質問について見解を問う。

- （1）本市の下水道管は国土交通省が緊急点検を要請したような、大口径の下水道管ではないが緊急点検を行うのか。
- （2）近年本市において、下水道管が埋設されていることが起因しての道路陥没は何件起きているか。
- （3）本市が所有し管理する下水道管は約457kmあるが、設置から30年以上経過した管路の延長は何kmか。
- （4）昨年3月に改訂された「魚沼市下水道事業経営戦略」によると昭和52年に下水道整備に着手し、40年以上が経過し

ようとしている中、計画的な施設更新と統廃合が求められているとあるが、管渠の更新計画はあるのか。

(5) 老朽化による施設の更新に際しては、国庫補助金を優先的に活用するとあるが、補助内容はどのようなものか。

(6) 管路施設の調査・維持管理など包括的業務委託、民間活力の活用を視野に含め、最適な手法を検討するとされているが、進捗状況はどのようなになっているか。

5 番（議席 4 番）星 直 樹 一問一答

1. 今後のふるさと納税について

返礼品の多くは「魚沼産コシヒカリ」であるが現在、在庫がなく数字が伸び悩んでいる。

この問題を解決するために以下の点を考えるが見解を伺う。

(1) 返礼品の供給元を増やす

- ・生産者や事業者の参加を増やす

地元の生産者・企業と連携し、新たな返礼品の開発・供給を進めないか。

(2) 代替品の提案

- ・在庫切れ時の代替品リストを用意

在庫がなくなった場合に、類似の商品を自動で提案する仕組みを導入してみないか。

(3) 事前予約・定期便の活用

- ・予約販売システムの導入

需要が高い商品については事前予約制を導入し、生産計画を立てやすくするシステムを考えないか。

- ・定期便モデルの活用

季節ごとに発送する定期便を増やし、一度の注文集中を避けるべきではないか。

(4) デジタル返礼品の活用

- ・電子クーポンや体験型返礼品を増やす

在庫が不要な「宿泊クーポン」、「地域体験」、「飲食クーポン」などのデジタル型返礼品を拡充することで、在庫切れのリスクを軽減できるのではないか。

6 番（議席 7 番）大 桃 俊 彦 一問一答

1. 魚沼インターチェンジ改称後について

魚沼インターチェンジへと名称変更がされ3か月が経過したが、市民の声として聞かれるのが「何で変更したんだろう。」、「名称を変更したことでいいことがあるんだろうか。正月の帰省客等は、

小出インターを目指してきたが通り過ぎてしまった。」など、名称変更に関心する声がいまだに多くある。更には、「16億円の経済効果があると聞くが詳細を聞かせて欲しい。」という声もよく聞く。これらを踏まえ、以下について質問する。

- (1) 名称が魚沼インターと変更され、どのような声を聞いているか。
- (2) 令和7年度予算には、16億円の経済効果を表す予算措置が示されているか。
- (3) 16億円の経済効果を示す明確なプロセスがはっきりとしていないが、市長任期中に効果が表れなければ、その先への効果は望めないと考えるが見解を聞く。

2. 魚沼市に温水プールの必要性について

魚沼市民温水プールを造る会から森島議長宛てに「室内温水プール建設のための早期検討を求める請願書」が提出された。これまでは数人の議員が一般質問に立ち、市長の見解を聞いてきたが、答弁としては「今は、造る時期ではないし、検討委員会の立ち上げも考えていない。」としてきた。しかし、昨年12月の一般質問には、「プールは造らない、検討委員会も作らない。」ときっぱりと否定をした。このことについて、市長の見解を伺う。魚沼市に温水プールは必要と考えるか、または必要がないと考えるか、その理由も含めて伺う。ただし、ないよりあった方がよいとの答弁はなしでお願いします。

7番（議席2番）横 山 正 樹

一問一答

1. 所信表明の具体策について

市長は、令和7年所信表明の中で「笑顔があふれる地域社会を創りたい」、その実現のために重点に据えているのが「地域経済の活性化」と「人づくり」であると述べている。その具体策について、市長の見解を伺う。

- (1) 人財の確保・定着に向けた「人への投資」を最優先にした施策を進めるとあるが、どのような施策を進めるのか。
- (2) 林業振興や市産材活用促進のために、市民が森林に触れる機会をどのように増やすのか、炭焼きや紙漉きなどの伝統技能継承のための支援はどのような内容か。
- (3) 雄大な景観や豊かな自然を地域の宝として後世につなぎ、多くの市民から自然環境保全の意識を高めていくためにどのような施策を考えているか。
- (4) スムーズな農地継承のための「地域計画」の進捗状況は、どのようなになっているか。

- (5) 職員の英知を結集して各種課題の解決に向けていくとあるが、職員の英知をどのようにして把握し、吸い上げているか。
- (6) 観光振興においては、様々なイベントなどへの誘客を行い多くの観光客が訪れるようになってきたと感じる。しかし、魚沼産グッズのお土産が少ないと感じる。例えば、公式キャラクター「うおぬまっち」のグッズ販売を考えてはどうか。

8番（議席10番）佐藤 敏 雄 一問一答

1. 「魚沼市の米生産対策」について

魚沼市は、近年少子高齢化及び人口減少が急激に進んでいる。中でもコメ生産農家は高齢化が進み、毎年約100戸ずつ減少が続く、担い手不足は地域農業のみならず魚沼市全域の環境保全まで危ぶまれる状況にある。こうした状況を打開し、将来にわたって継続できる農業を目指して、10年後を見据えて、担い手へのスムーズな農地継承が行われるよう関係機関・団体の協力を得て「地域計画」の策定が進められてる。魚沼市の農業は、地域全体の存続にとって重要な役割を持っていることから、現状の計画状況を確認するとともに、以下について提案し、市長の見解を伺う。

- (1) 地域計画は、市内9地区に分けて地区別話し合いを実施したとあるが、現状での問題点と対応策はどうか。
- (2) 担い手の効率化を図るには、ほ場の整備が必要であるが、整備状況はどうか。特に山間地は問題と思うが、大規模な区画整理と並行して「畔抜きなど簡易な対策」も必要と思う。市独自の補助制度があるが、もう少し柔軟性を考えるべきと思うがどうか。
- (3) 担い手の土地集約・効率化は必要だが、一方で定年退職者やI・Uターン者など若者の募集・地元土建業者など異業種が参入できるような対策は考えられないか。
- (4) スマート農業機器の導入支援は必要だが、加えて小規模農家に対する機械支援の条件緩和も必要と思うがどうか。
- (5) 農業機械・肥料・農薬等の高騰による経費が増大しており、コメの有利販売で儲かる農業でなければ取り組み手はいない。有機栽培や米の6次産業化での付加価値を付けた販売・ふろさと納税の更なる活用など直接販売に取り組む必要があると思うがどうか。
- (6) 消えた21万トン（仲介ブローカーの関与）と毎日のようにテレビ放映がされているが、このことについて市長はどう考えるか。

2. 今泉養鶏団地について

今泉養鶏団地は、経済状況の変化により全面廃業となり、16棟あった鶏舎が倒壊し見るも無残な状況になっている。近くに保育所もあり景観上の問題やクマなど野生動物の住処になる恐れもあり、市に対して撤去の要望が地元今泉区から2回提出されている。令和3年7月の第2回魚沼市議会一般質問で、市長の英断で解決するよう要請をした。しかし、個人所有の民間施設であるため、市が勝手に解体撤去はできないとの回答だったが、私の再質問で、市の最高責任者としての決意を再度聞かせて欲しいとの問いに対して、市長は、「意見を肝に銘じておく。」と回答した。あれから4年、状況が変わった。土地の所有者は逝去し、相続人は相続を放棄したが、13,000㎡ある場所はそのままである。

この地は、魚沼市の中心地の優良農地だった。これだけの土地がまとまっていれば、活用の道はあると思うと不動産業者は言っている。多くの問題があることは理解しているが放置されて10年になる。市長の英断しか解決の道はない。市長は「できない理由でなく、どうしたらできるのか考えよう。」と常に話をしている。市長が先頭に立って、力強いリーダーシップで解決するよう望み再度市長の見解を伺う。

令和7年3月5日（2日目）

9 番（議席 6 番）星 野 みゆき **一問一答**

1. 困難を抱えた子どもたちの中学卒業後の継続的支援について
 - （1）高校中退などで、学校へ行っていない18歳までの子どもたちについて把握しているのか。
 - （2）小・中学生と比べて現実的には相談や福祉サービスの利用が難しいと感じるが、中学卒業後の未成年が相談サービスとしてはどこに連絡すればよいのか。
 - （3）高校中退者への支援の現状と課題は何か。
2. 検定料の補助について
 - （1）ここ数年、全体の学力は残念なことに落ちてきているようであるが、英語についてはどうか。
 - （2）中学校における英語検定・漢字検定・数学検定の取得状況はどうか。
 - （3）漢字検定、数学検定の検定料の補助についての見解はどうか。

10 番（議席 12 番）渡 辺 一 美 **一問一答**

1. 市長の所信表明について

市長は所信表明において、令和7年度の予算編成にあたり、市長そして職員がぶれずに、また、立ち止まらずに前進しようとする意識を持ち、前例なき事案にも果敢にチャレンジしながら、市民が幸福を感じられ、夢と希望を持てる地域社会の実現を目指して、市政進展に邁進するとの覚悟を表明した。

そこで、2035年の人口減少下でも夢と希望を描けるまちづくりとして、必要な予算・施策について伺う。

 - （1）これからの公共施設は、長寿命化計画で改修・除却をするだけでなく、統廃合による新設が必要である。基本構想から基本計画・基本設計・実施設計・建設・管理運営に至るまで市民と協働で行う手法について、どこまで検討し予算に反映しているか。
 - （2）道路の除雪や維持管理も含め、地域維持型、長期契約の手法を取り入れ、一次産業者や一人親方、コミュニティ協議会など多様な人材で地域を維持し特に冬季間も含めた安定的な雇用と人材確保策を検討するための予算計上が必要ではないか。
 - （3）「継続的・経常的事業において時代の変化に即した業務の在り方や執行の見直しを図るべく検討するとともに、既成概

念にとらわれず柔軟な発想で課題の解決策を探るよう職員に対して意識改革を指示したところである。」とのことだが、具体的には、どのような事業において既成概念にとらわれない柔軟な発想での課題解決策を想定しているか。

以上3点について、市民が幸福を感じられ、夢と希望を持てる地域社会の実現を目指して、市政進展に邁進する市長の『覚悟』を伺う。

1 1 番（議席 8）大 平 恭 児 一問一答

1. 雪対策について

- (1) 災害救助法や県救助条例の積雪深の適用基準について、山間部や標高の高い地域との間にはかなり差があり、行政庁舎などによる観測地だけでは不足がある。山間部ほど、道路除雪や住家の屋根雪、出入口や家の周りなどの除雪に苦勞している。観測地点は積雪が多いところに、また、基準積雪深そのものを下げるなど見直すべきではないか。
- (2) 内閣府は、災害救助法適用について、プッシュ型支援として柔軟で積極的な支援体制を取っている。市の方でも基準にこだわらず早い段階から国や県と情報共有し、従来より更に早めの対応を行うべきではないか。
- (3) 集落の除雪体制の整備は切実な課題である。その中で、市の冬期保安要員制度は需要だ。保安要員の待遇面の充実や、保安要員配置の集落内道路の国県市道以外の未除雪区間、集落世帯数など、県の基準や、それ以上に拡充するべきと考えるが、その認識を伺う。
- (4) 昨今の大雪への対策は、高齢化が進む魚沼市にとって住民の命の危険にもつながるような最重要な課題である。
 - ① 市の雪対策の柱に、「雪害」を定義し、そのもとに施策を推進するべきと考えるがどうか。
 - ② 除雪作業員の確保について、市の直接雇用などにより行うことが必要ではないか。

2. 魚沼基幹病院への通院の整備について

魚沼基幹病院は、主に紹介状により受診する医療機関である。特に病院から離れた地域の守門、入広瀬地域などの車を持たない高齢者や障がい者など交通弱者は、交通費や要する時間がかかり大変である。

- (1) 安心して医療を受けられる地域とするためにも直通で通院できる、オンデマンドタクシーやバスなどを計画的に整備をするべきではないか。

- (2) 高齢者等が、バスなどに使える補助制度を行うべきではないか。

12番（議席1番）桑 原 郁 夫 一問一答

1. 教育現場等における国旗の取扱いについて

平成11年8月に制定された『国旗及び国家に関する法律』には当時の総理大臣の言葉として、国旗と国歌は国民のアイデンティティの証として重要な役割を果たしていると記されている。また令和4年文部科学白書には、グローバル社会の中で特に求められている力として、日本人としてのアイデンティティを培っていくことが一層重要になってくるとある。また私自身日本を愛し敬う心が日本文化や習慣、伝統、そしてそれを守ってきた先人への感謝の心につながりそれを理解することで他国の方々がその国を大切にする気持ちが理解できると認識する。それが他の文化や習慣その国の人々を尊重する心につながると海外生活を通して実感している。そこで以下について問う。

- (1) 国旗掲揚の意義について本市の認識と国旗の掲揚について伺う。
- (2) 新聞社の調査によると日本人大学生の7割以上が建国記念日について知らず、国旗についても無関心とある。そこで魚沼市の義務教育において国旗の掲揚や建国記念日の由来を教え敬う心や祝う心を養う指導をしているか伺う。
- (3) 議場も国旗と市旗が掲げられているが、市民にも祝日や魚沼市の誕生日に魚沼市の旗を掲げ祝い敬うような施策を提案するが市長の見解を伺う。

2. 郷土愛の醸成について

市長は今回の所信表明の中で、重要施策の一つとして『郷土愛の醸成』を掲げ、その中で旧広神庁舎1階に来月オープンする歴史資料館を有効に活用し、郷土愛の醸成につながるような地域や学校に関わる運営の仕組みを検討すると述べている。オープンも間近に迫り、地元や関係者も期待していると推察するが以下について伺う。

- (1) 歴史資料館を活用し具体的にどのような方法で郷土愛の醸成を図るのか伺う。
- (2) 歴史資料館を活用し、どのように魚沼の歴史や文化を点在する施設に結びつけてるのか伺う。

13番（議席11番）遠藤徳一 一問一答**1. 今後市政は積極財政か緊縮財政か**

所信表明では物価高、人件費高騰等が及ぼす経費全般の負担の引き上げが、財政力指数の低い魚沼市にとって厳しい状況であり、今後は事務事業の見直しなどによる行政のスリム化や優先度を見極め事業の廃止や見直しも考えていかなければならないとしている。一方で「経済の活性化」、「人への投資」等、重点政策としている。集中と選択の中で足し算、引き算のほか成長する分野への掛け算が重要と考える所信から見える市政の今後は積極財政か緊縮財政か。

2. 地域移行における部活動参加にスクールバスの運行はできないか

地域移行による部活動参加に家族の負担は増しているようだ。夜の活動が多く下校後の時間調整も含め苦勞が多いと聞く。

下校後、部活動までの間、宿題や勉強をする環境や、簡単な食事をとれるような拠点づくりを計画している団体もある。またそういった拠点として施設を開放してもよいとする施設管理者もいる。各地区や個人宅まで送迎がなくともスクールバスの集積所としてそういった拠点を利用し部活動への送迎はできないか。

14番（議席3番）佐藤達雄 一問一答**1. 訪問介護の充実を**

市の「第9期介護保険事業計画」は、高齢者の地域での生活を支える地域包括ケアシステムの更なる深化・推進や医療・介護の連携強化等の取組を進めるとしている。しかしそうした中で、訪問介護事業所数は令和5年度には5から3に減り、令和6年度には更に2に減っている。訪問介護事業維持・発展のためには抜本的対策が必要だ。

- (1) 市の「第9期介護保険事業計画」の居宅サービス事業量の実績において、令和5年度の訪問介護の年間の実績人数は2,136人となっている。これだけの利用者がいる中で事業所数が2に減っている。利用者には訪問介護利用をあきらめざるを得ない人がおり、残った2事業者にもそのしわ寄せが及んでいると推測される。市はその実態調査を行っているか。
- (2) 小出地域に訪問介護の拠点を設置して、居宅介護希望者をしっかり支えるとともに、小出病院の訪問看護ステーションと連携し、在宅医療と訪問介護の充実を図る必要があると考えるがどうか。
- (3) 訪問介護事業の経営が厳しい中でやり繰りしている事業者

を、しっかり支え事業を存続させるためにも、以下の公的な支援を求める。

- ①減収分は遡って支援を。支援金は、引き下げ前の訪問介護基本報酬に、政府が昨年の改定で本体部分の平均引き上げ率とした0.61%を上乗せした額と、引き下げ後の実績報酬額との差額を、市内の訪問介護事業者に支払うこと。
- ②燃料費支援金として車1台につき月3,000円を支払うこと。
- ③利用者宅まで7km以上の訪問介護に、1回100円を上乗せすること。

2. 生活道路消融雪装置の補修を速やかに

- (1) 市内の消雪パイプ不調の声が多数寄せられている。市内の消融雪装置の総数と、現在不具合のある装置の数はいくつか。
- (2) 不具合箇所はできるだけ速やかに補修・復旧し、以降具合が見つかった場合には、遅くとも次の冬までには補修し復旧させる必要があると考えるがどうか。

15番（議席16番）本 田 篤 一問一答

1. 将来の妊娠を希望する方への支援（プレコンセプションケア）について

プレコンセプションケア(Preconception care)とは、将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うことである。この言葉は、コンセプション(Conception)は受胎、つまりお腹の中に新しい命を授かることをいう言葉に、接頭語のプレと、後ろにケアという言葉がついたものである。2012年に世界保健機構(WHO)が本格的にプレコンセプションケアを推奨した。日本においては、2015年に国立成育医療センターでプレコンセプションケア外来が開設されているようである。ようやくこれからというような概念ではある。当市にもこの考えを大いに取り入れるべきだと考えている。

- (1) 出産に関しての大きな課題、例えば妊娠出産に関するリスクや合計特殊出生率などを乗り越えるためにプレコンセプションケアは重要と考えるが、当市の受け止めを伺う。
- (2) 今後、プレコンセプションの取組を推進することを提案するが、当市の受け止めを伺う。特に、プレコンセプションケアの理念を踏まえた中での、今後の学校教育の取組を期待するものであるがどうか。

2. 所信表明を問う

所信表明を拝聴した。市長就任1期目は種まきの段階であり、2期目で施策が実ることを願う。特に、人材を人財と評して、人への投資を積極的に行う施策方針に、共感するところもある。一方で、1期目任期中は新型コロナウイルス感染症、2期目もそうそうに物価高騰、円安、大雪など、想定外の事象が生まれ、対処に苦慮していると察する。また、公共施設再編、インフラ維持、教育や医療の再編など、コストがかかるにもかかわらず、全容の见えない大きな課題もある。これら不透明感が加わり、魚沼市の未来絵図が描ききれていない印象を受けた。

(1) 人への投資は、短期間での施策の達成効果が示しにくい。

重要業績評価指標（K P I）を前面に出し、常にフィードバックしながら施策内容の深化を行うべきと考えるが、市長の考えを伺う。

(2) 国政の影響もあり、財政計画が立てにくい段階ではある。

しかし、前述のとおり、公共施設再編、インフラ維持、教育や医療の再編など、コストがかかるにもかかわらず、全容の见えない大きな課題もある。財政計画とリンクしたビジョンは必要であると考えているが、市長の考えを伺う。

(3) 魚沼市になくて、他市にあるもの（または、その逆）、特に図書館、400mトラック、室内プール、スケートボード場などのスポーツ施設、子育て支援施設などは、お互いに長所を補完し合うことも必要と考える。所信表明では盛り込まれてはいないが、広域連携の必要性をあらためて感じており、今後は重要な施策の位置づけとして考えるべきではないか。市長の考えを伺う。